

なきごえ



1980

12

大阪市
天王寺動物園協会

カナダの自然と動物

黒田 尚嗣



バンクーバーから東へ約400km、北のオカナガン湖と南のスカハ湖にはさまれたリゾートタウンであるペンティクトンは、まだ日本の人々にはなじみが薄いようです。しかし、この湖畔の町はカナダ、アメリカの人々には四季を通じてのパケーション・ランドとして有名で、郊外には広大な果樹園がひらけ、またレクリエーション基地としてもにぎわっています。

オカナガン・ゲーム・ファームはこの町のはずれにある動物園で、カナディアン・ロッキーに生息する動物を集めてあることで有名です。私が初めてこの動物園を訪れたのは昭和54年の夏でした。ガイドのHoward君に案内され、園内を車で一周すると、ここは動物園ではなく、人間と動物と自然とが調和した楽園のように感じられました。実際、カナダの英語の辞書にはZOOが「野生動物を保護し見せる場所」と定義されているのに対し、farmは「動物や作物を

育てるのに使用される土地家屋」と定義されており、辞書の意味からして動物園と異なっています。

ムース、エルク、ロッキー・マウンテン・ゴートなどのカナディアン・ロッキーの動物だけでなく、今ではアフリカでも数少ないシロサイやエランドが直に見られることもこのゲーム・ファームの魅力の一つでしょう。

アフリカの野生動物と違って、車から降りて近づいても危険はなく、むしろ彼らの方から親しみをもって近づいてきます。それも変に人間に慣れているとか、飼われているというイメージはなく、ごく自然に感じられるものです。すなわち、ここでは自然の真の美しさを見ることができます。

そもそもカナディアン・ロッキーは、毎年多くの観光客が訪れているにもかかわらず、どうしてこのように美しい自然が失われないのでしょうか。

聞くところによると、カナダの国立公園には有名な標語があり、皆がそれを守っているからだそうです。その標語は「Take only memories and leave only footprints.」で意味は「持ち帰るのは思い出だけにしなさい。また残していくものは足跡だけにしなさい」ということです。すなわち、草花を持ち帰ったり、ゴミ等を放置するなどということでしょう。

自然はすばらしい。大自然は厳しく恐ろしいが、人間がそれに気がついた時、それは限りなく優しい。動物たちも、人間がかれらをなにかまだと思った時、かれらも容れてくれる。

私は日本にもオカナガン・ゲーム・ファームのような動物園ができることを望んでいます。そのために、私達は動物を愛すると共に、カナダの標語を頭に入れて自然保護にも努力すべきだと思います。

(阪急交通社ツアーコンダクター)

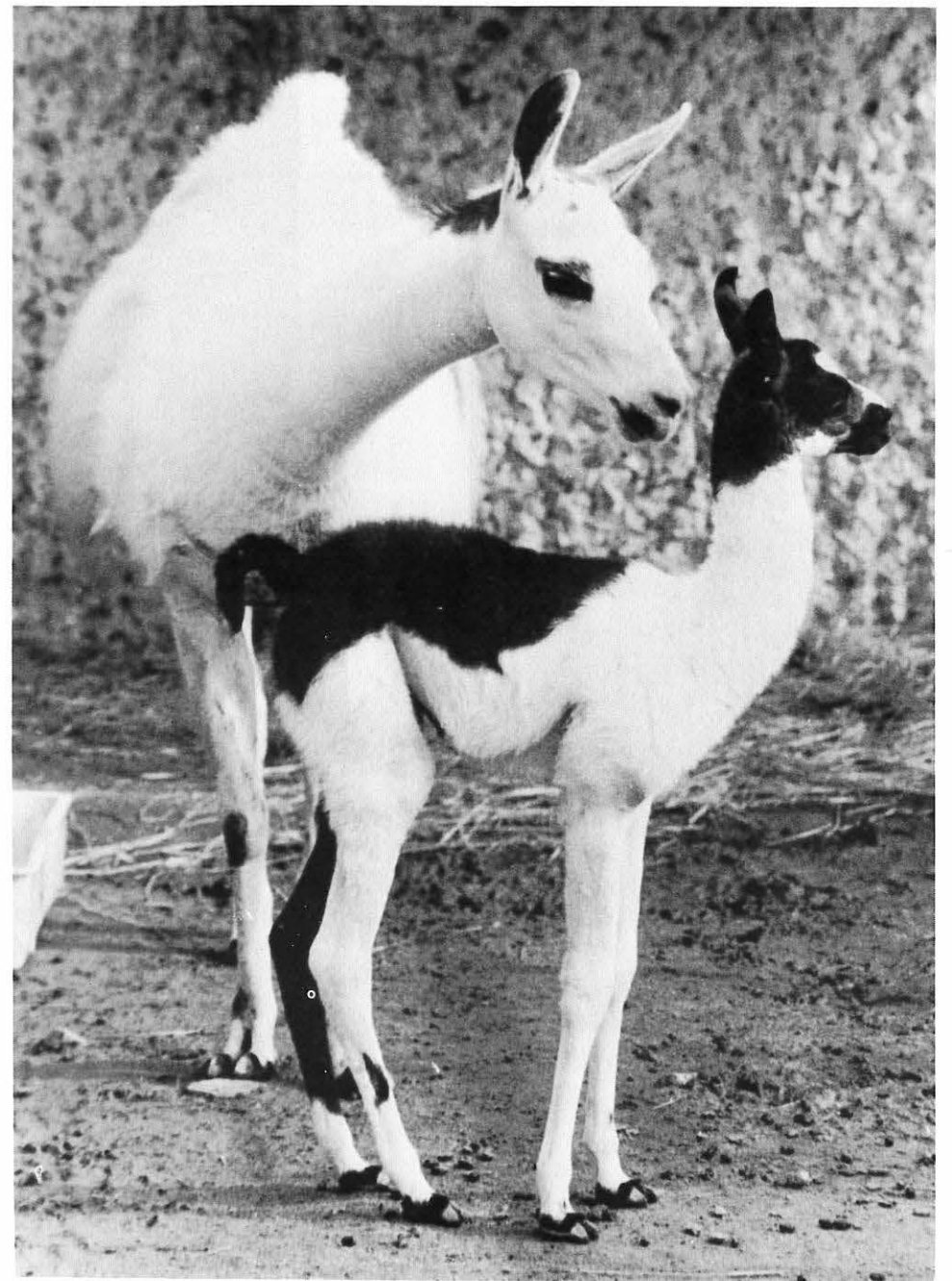
なきごえ12月号もくじ

動物と私 2
ラマの誕生 3
動物園グラフ・動物園日記 4・5
ユリ子さんと私 6・7
動物園この1年をふり返って 8・9・10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“ヘラサギ”

ヘラサギはその名の通りヘラのような奇妙な嘴が特徴です。日本にも冬鳥として渡来しますが、当園では北園の水禽放養舎で飼われています。(撮影：大野 尊信)



“ラマ 誕生”

11月18日、ラマにオスの赤ん坊がうまれました。母親のマリーにとっては2産目、動物園にとっては6頭目のラマの子です。(撮影：長瀬 健二郎)

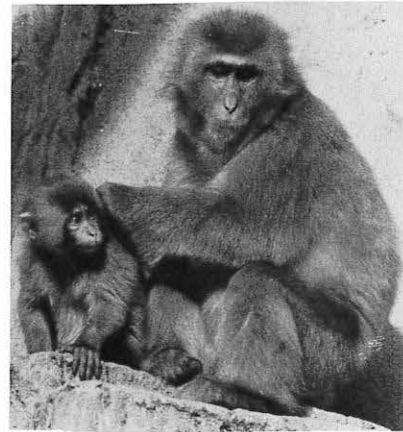
動物園グラフ

“1980年生まれの動物達”

今年も数多くの動物が誕生しました。その中から主な誕生動物をグラフで特集してみました。(詳細は本号「動物園この1年をふりかえって」P8参照) (撮影:宮下 実)



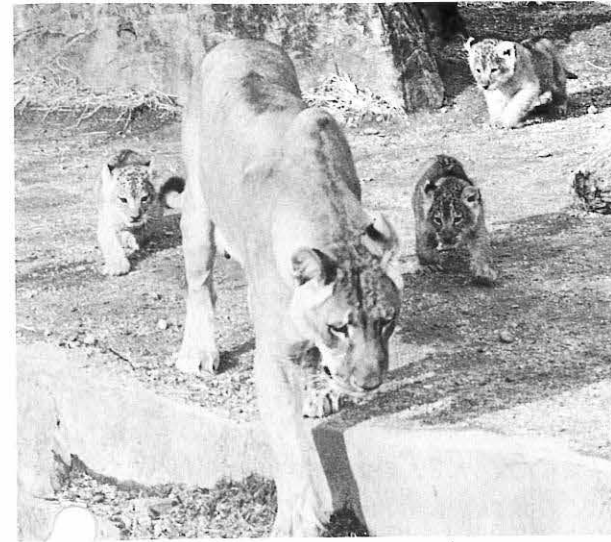
① ボリビアリスザル
母親は3回目の出産です。



② ニホンザル(5月14日誕生)
サル類のトップをきって生まれました。以後、6月20日、8月1日に各1頭生まれました。



③ ラマ(1月31日誕生)
1980年誕生動物の第1号です。11月18日にももう1頭生まれました。



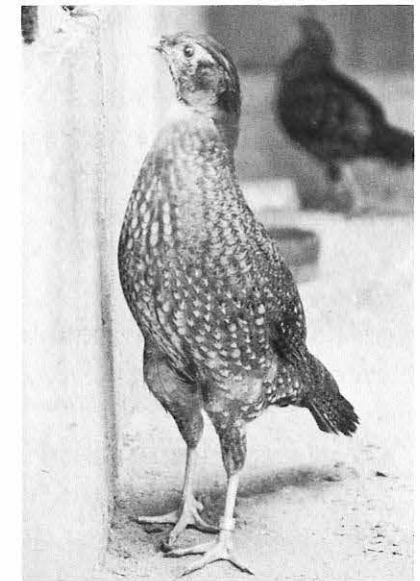
④ ライオン(7月15日誕生4頭)
放飼場で生まれた4頭は順調に育っています。



⑤ タンチョウ(5月28日誕生)
5年連続して繁殖に成功しましたが、2羽ふ化した内、1羽は惜しくも死亡しました。



⑥ シュバシコウ(5月誕生)
毎年繁殖を続けていますが、今年も2巣で3羽誕生しました。



⑦ ベニジューケイ(6月誕生)
昨年に続き、今年も4羽ふ化、成育しました。

10・11月の動物園日記

- 10/25. スーティーマングベイの雌が左足を骨折したので治療しました。
- 26. 今年繁殖したアカハシリウキュウガモをフライングケージに展示するため見合を始めました。
- 28. チャムネシャクケイ、ミカドキジなど6種7羽のキジ類の寄贈がありました。
- 30. ソデグロバトが感染症のため死亡しました。
- 31. 嘴を折ったタンチョウ2羽を放養舎に移動

- 11/2. ジングルキャットの子供が首捻転のため入院しました。
- 3. マレーバクの雄が急死しました。秋の動物祭が終了しました。
- 4. 1ヶ月余り前から治療を続けていたタンチョウの雌がアスペルギルス症のため死亡しました。
- 7. ミカドキジの雄が気嚢炎のため死亡しました。
- 8. アカカンガルーの治療を続けています。

今年初めてのオオミズナギドリの保護がありました。

- 11. 山羊と緬羊の削蹄をしました。
 - 11. 先日角を折ったバーバリーシープの折損部の洗浄をしました。
 - 12. ジングルキャットの子供が退院しました。
 - 14. ベンガルワシミズクが肝壊死のため死亡しました。
- 人工哺乳中のニホンザルの“優美”が下痢をしているので治療しました。
コウノトリ舎の建設が始まりました。

- 17. 昨年生まれたカバの“ジュン”が出園しました。
- 18. ラマの子が1頭生まれました。
- 19. メガネカイマンが衰弱のため死亡しました。
- 20. キジ類にニューカッスル病のワクチンを接種しました。
大阪府立盲学校の子供たちが6人来園し、トカラヤギなどに触って動物の勉強をしました。
- 21. ゴリラの“ゴロー”が風邪気味で下痢をしているので薬を飲ませました。

「ユリ子さんの輸送と象使い役の私」

石川 多賀夫



「ユリ子さん、昔々、タイ国のバンコックよりあなたを船で大阪まで私が連れてきたことを覚えていませんか。生まれて約半年の、それはそれは可愛い子象でしたよ。娘や息子の幼ない時、よく天王寺の動物園に行って、あなたと対面させましたが、キャア、キャアと喜んだものです。市役所時代のうちで、あなたとの出会いが一番印象深いです。」

実は、昭和25年5月4日、東西汽船KK（当時の大阪商船KKの子会社）の第5東西丸のパーサー見習いとして、門司で乗船し、タイ国の首都バンコックに向かいました。

恐らく、大阪市役所の海外出張第1号だったと思います。昭和25年5月といえば、私が大阪市経済局の貿易課に入れてもらってやっと1年半ぐらいたったばかりの頃であります。

ある時、当時の栗本助役と工藤貿易課長に呼ばれると、「こんど、商船系のタイ米輸送の船に、仮りの船員として乗りこんで、象をもらって来てくれないか。

春子が既に来ているが、1頭では淋しいから、春子をくれた北庄司さん（大阪ゆかりの日タイ貿易商）に、もう一度ねだってくれないか。しかし、役所の出張名目は、バンコック市場調査ということにするから、そのつもりで」との御託宣。

これは大変なことになったと思いましたが、「論言汗の如し」というわけで、否応なしに引受けざるを得なくなりました。

片道10日間、何とか目的地バンコックに着くことができました。

いわれたように、市場調査の方はそこそこに、簡単に済ませ、“象もらい”の仕事に精を出して取りかかりました。

相手の北庄司さんも、前月に1頭世話したばかりなので「難かしいな、難かしいな」といわれましたが、それでもあちこちのルートを通じて、いろいろと骨を折ってくれました。

たしか一週間ぐらい経った時に、息せき切って、「石川はん、やっとうまくいきました。生まれて半年の子象やが、春子といいコンビになりませ。ああシンド。これで肩の荷が下りました」と北庄司さんが何よりの話を聞かせてくれました。そして「さあ、さあ、これからが忙しい。2、3日のうちに象檻を造らんならんし、船中10日間の餌を用意せんならん。石川はん、象使いは雇うかどうしはります？」と独りごとのようにいわれました。

早速、うれしさを胸をどきどきさせながら、役所の方へ「象OK、象使い頼む」という電報を打ちました。これに対し、「それはご苦労。象使いの件についてはお前が頑張っ、その役目をしてくれるように」という文面であります。

これはえらいことになったと思いましたが、直ぐに茶目っ気が出てきて、一丁象使いよろしくやると決心しました。そこで「保険だけでも」と問合せると「保険は春子の経験に鑑み、かける必要なし。心配しなくてもいい。10日間ぐらだから大丈夫」という返事。当時の役所のお偉ら方は、冷静そのものというか、勘定高いというか、はっきりしたものであります。

北庄司さんのお世話で象の檻もでき上り、10日分の餌として椰子の茎、リンゴ、粉ミルクも大量に用意されました。

いよいよ出航の日が来ました。バンコックの近郊から檻に入れられた子象と一緒にトラックに乗って港に向いました。バンコック市民の人達の対日感情は非常によいので、途中街々で通りがかりの人達が、



甲板上のユリ子

歓送の意味で盛んに手を振ったり、“お元気にね！”（勿論タイ語）と笑みをたたえながらいてくれました。

喜びの気持ちと同時にやれやれといった気持ちでやっとうまくも乗船することができました。

ところが、驚くべし！ 船に「象はでかした。できれば虎を1頭頼む」という電報が届いているではありませんか。こちらの苦労も知らずにと開いた口がふさがりませんでした。よくぞすでに船に乗りこんでしまっ、出発寸前であったものだと、ひそかにホッとしました。そして「象積込み完了。もう直ぐに出航の鐘がなる。残念！」という電報を北庄司さんに打ってもらいました。いやはや全く漫画的でありました。



大阪での歓迎の人だかり

時は5月の下旬、燦燦と輝く太陽、紺碧の海。甲板では、船員達が子象にたわむれながら、さかんに餌をやっている。どうしても可愛さのあまり、餌をやりすぎて困る。特に甲板に積んである椰子の茎は灼熱の太陽の下、どんどん水分をなくし乾燥すること甚だしく餌の用をなさないものが日1日と増えてくる。到着までもつかしらと、そればかりが気になる。象はリンゴとミルクが好きで、目を細めて口に持っていく。そんな機嫌のいい時に、度々子象の背中に乗る。痛快、痛快！ それでも夜、海が荒れると大変だ。こちらの腹にしみわたるような大きな声を出して咆哮する。身体はまだ小さいが、ビックリするような声である。

さて、だんだんと象使いの役にも慣れ、少し面白くなってきた時分、台湾海峡にさしかかることになる。ところが急に子象はグッタリとなって、何か苦しそうに唸り出す。どうもあまり餌を食いすぎて、糞詰まりになったようである。そうなる船員達は現金なもので、自分等が食わせすぎたにもかかわら

ず、「石川さん、象使い役の実任ですよ。ひとつ頑張っ、自分の手で糞を抜きとってやったらどうですか」といとも簡単にいつてくれる。これは、えらいことになったと内心ビックリ仰天しましたが、先ずは天王寺動物園の方に電報を打っ、お伺いをたてる方が賢いと気を取り直し、早速電文作成にかかる。幸い、当時の園長の寺内さんから返事があり、「それほど心配しなくてもよい。そんな簡単に死ぬものではない。餌だけは、もうやらないようにしてほしい。船は大阪に着く前に神戸港に寄る筈だから、専門の獣医を神戸に差し向けるようにする」といつて来たのであります。船員達ともども、一安心しました。

たしか、それから一兩日して神戸港に無事到着しました。約束通り、寺内園長さん他2、3人の専門家が来ておられ、早速象の体調を診ていただき、適宜の処置をしてもらいました。

これで、象使いの役から完全に解放されました。翌6月5日、大阪港に入港、そして子象は直ちに天王寺動物園へ。しばらくたって、ユリ子と命名されました。先着の春子の妹ができたわけであります。私は31年余り、大阪市役所に勤めさせていただきましたが、私の役所に対する唯一最高の貢献は、この象輸送の仕事だったと確信しております。

近く久しぶりに御対面しようと考えております。ユリ子さんの長寿を祈りつつ欄筆することになります。



現在のユリ子(左端)、中央はラニー博子、右端は春子。

(大阪地下街株式会社取締役社長)
(前大阪市助役)

動物園この1年をふりかえって

激動、混迷の1980年代への突入といわれたこの年、天王寺動物園の動物達にどのような変化が起きたかふりかえってみましょう。

1. 新しく入園した動物達

- 1月22日、鼻先が白く毛並みの美しいハナジロゲノン (写真①) の1種、アカオザル4頭が入園しました。
 - 1月29日、繁殖を図るためオオサイチョウをさらにもう1番入れました。
 - 2月8日、キングペンギンが3羽入園しました。これでキングペンギンが計4羽となり大変にぎやかで、ペンギン放飼場も見ごたえのあるものとなりました。
 - 2月15日、色彩豊かなカリフォルニアキングヘビ、キイロネズミヘビ、ゴッファースネークが入園しました。
 - 4月21日、キリーがなくなってさびしくなったキリン舎にみさき公園から紋様もあざやかな1才7ヵ月のキリンのさき子ちゃんがやってきました。(写真②)
 - 5月26日、ジェントウペンギンが2羽入園し、これでペンギン放飼場は7種29羽の大世帯となりました。(写真③)
 - 6月22日、1人者のパタスザルのオスにメスのお嫁さんがやってきました。心配もよそにすぐ仲良くなり2世誕生がたのしみです。
 - 7月2日、齧歯目としては大型で足が長くスマートでウサギのようなマーラ (写真④) が3頭入園しました。
 - 9月28日、ウチワキジ、サンジャク、アオエリルリサンジャク、ネズミツバメチドリ、インドトサカゲリなどが多数入園し、小鳥の家がひときにぎやかになりました。
 - 10月10日、セイランの若夫婦がお目見え、元からいたオスはひとまず静養、新旧交代して二世誕生が待ち望まれます。
- ## 2. 今年生れの動物達
- 1月31日、ラマ夫婦に母親そっくりの純白のオスの赤ちゃんが生まれました。
 - 2月10日、キョンにメスの赤ちゃんが生まれました。
 - 3月8日、コヨーテに6頭の赤ちゃんが生まれました。パーバリーシープが3月10日～4月1日にかけて4頭生まれました。
 - 4月2日、フンボルトペンギンが2羽ふ化しました。
 - 5月25日と28日にタンチョウのヒナがふ化しました。今年で5年連続で9羽がかえりタンチョウ家族はこれで11羽となりました。カリフォルニアアシカが6月3日、9日、22日と3頭生れ、これでアシカ家族は10頭になりました。(写真⑤)
 - 6月3日、フサオマキザルにオスの赤ちゃん誕生
 - 6月14日、ブラックバックにオスの赤ちゃん誕生。レアが6月～8月にかけて8卵産卵し、5羽ふ化しましたが現在2羽がすくすく育っています。
 - 7月15日、ライオンの赤ちゃんが運動場で4頭生

- れましたが翌16日にうち1頭が他のメスライオンにいたずらで堀に落され、おぼれていたのを網で救い動物病院ですぐさま手当をしました。幸い命をとりとめ、現在4頭共元気で仲良くくらししています。
 - 7月25日、大型の齧歯目の仲間であるパカに赤ちゃんが生まれました。これは日本では初めての繁殖です。ムーミンと名付けられ、母親とそっくりの可愛い赤ちゃんです。(写真⑥)
 - アカハシリウキウガモが7月29日、8月30日、9月1日とふ化しました。これも日本で初めての繁殖です。(写真⑦)
 - 9月11日、キョンにオスの赤ちゃんが生まれました。母親は8産目、今年2回のおめでたです。
 - 9月12日、トラ夫婦に2頭の赤ちゃんが生まれましたが残念なことに25日目に死亡しました。
 - 11月18日、ラマにオスの赤ちゃんが生まれました。今年1月に続き2度のおめでたです。
- ## 3. いただいた動物、保護収容した動物達
- 1月10日、コミミズクが保護されました。
 - 3月1日、マレージャコウネコのメスの寄贈がありました。
 - 3月16日、アオバトのオスが保護されました。
 - 3月20日、兵庫県で小型のタカ的一种であるツミが保護され、現在も元気で、展示されています。
 - 3月22日、アカゲザルのオスが寄贈されました。
 - 4月8日、福岡県で保護されたフクロウが持込まれ、現在、展示しています。
 - 4月18日、ヤマシギが保護されましたが数日後死亡しました。
 - 4月22日、カケスが保護され、展示しました。
 - 5月12日、24日の両日にアオバズクが各1羽保護され、うち1羽を展示しました。
 - 5月21日、オシドリが保護されました。
 - 6月8日、奈良県で保護されたカイツブリが持込まれ、展示しましたが3ヵ月後に死亡しました。
 - 6月14日、ハコガメが2種類寄贈されました。
 - 7月8日、カルガモのヒナが5羽保護され、うち4羽が元気に育ち、日本庭園で展示しています。
 - 7月19日、コサギが保護されました。
 - 8月4日、箕面の山で保護されたカニクイザルが持込まれました。
 - 9月16日、サンショウウオが保護されました。
 - 9月27日、奈良市の愛鳥家からオナガキジ、コサンケイ、ミヤマハツカン、ギンケイの寄贈があり、展示しました。
 - 10月4日、貝塚市で可愛い野鳥のノゴマが保護され持込まれました。
 - 10月16日、ベニコングウインコが2羽寄贈されましたがうち1羽が3週間後に死亡しました。
 - 10月17日、保護されたアライグマ (写真⑧) が持込まれましたが飼育放棄した飼主が動物愛護法に基き検挙されました。
 - 11月5日、キモンオオトカゲが保護されました。

- 11月8日、17日、18日の3日にわたりオオミズナギドリの子鳥3羽が渡りの途中、体力不足から保護され、持込まれました。
- ## 4. 今年なくなった動物達
- 1月3日、キジの一種、チャイロカケイが肝臓破裂で死亡しました。
 - 1月27日、日本では当園だけにいたワートホッグが残念ながら心臓疾患で死亡しました。飼育期間は11年でした。
 - 3月2日、母親キリンのキリーが2月26日に6産目を死産し、後産停滞が原因で子宮内膜炎をおこし残念ながら死亡しました。飼育期間は15年10ヵ月でした。
 - 3月13日、国内でも数少ないオオアリクイが老衰のため死亡しました。飼育期間は10年9ヵ月でした。
 - 4月12日、ベニジュケイのメスが肺出血と盲腸虫症のため死亡しました。
 - 4月18日、日本では当園にただ1羽飼われていたハシブトインコが死亡しました。
 - 5月23日、ベイサオリックスのオスが敗血症のため死亡しました。飼育期間は5年11ヵ月でした。
 - 6月21日、ブラックバックのオスが全身の疥癬症のため死亡しました。飼育期間は5年でした。
 - 7月10日、親善動物としてダッカ動物園から送られたジャングルキャットのオスが死亡しました。
 - 8月2日、過酷症のニホンジカの仔が治療後、腸閉塞のため死亡しました。
 - 9月2日、腰麻痺で長期療養中であつたミーアカットのメスが脂肪肝のため死亡しました。
 - 9月17日、8年ぶりにふ化したホオジロカンムリヅルのヒナが10日目にしてコクシジウム症のため残念ながら死亡しました。
 - 11月3日、マレーバクが死亡しました。飼育期間は5年でした。
 - 11月4日、今年生れのタンチョウのヒナがアスペルギルス症のため死亡しました。
 - 11月14日、ベンガルワシミミズクのオスが肝臓死のため死亡しました。
- ## 5. 今年の主なできごと
- 1月21日に新しい一時収容舎が完成し、25日から移転が始まりました。一時収容舎には、余剰動物や検疫動物、保護動物などを収容します。
 - 1月中旬、動物病院に各検査室、レントゲン室、討議室、標本資料室などを設置するため増築工事が始まり、151㎡の建物は6月中旬に完工しました。(写真⑨)
 - 2月17日、キリンのタカオとキリーとの間に生れたタイちゃん(1.5才)が出園しました。
 - 4月27日から5月5日、春の動物園まつりが開催され、展示館では「世界の動物園ポスター展」が、園内では動物無料相談所の開設、ボランティアによる動物ガイドなどが行われました。
 - 5月5日、「ゾウのハル子、ユリ子、来園30年記念感謝の集い」が開催され、体重測定、感謝状贈呈などが行われ、30年間、市民のみなさんのアイドルになり、楽しませてくれた労をねぎら

- いました。(写真⑩)
- 5月10日、愛鳥週間に因み、展示館で「鳥の世界展」が催されました。
- 6月3日、夏への衣替えに因み、健康管理も兼ね、緬羊の毛刈が行なわれました。(写真⑪)
- 6月20日から7月15日、展示館で「野生動物の保護展」が開かれ、ワシントン条約と滅びゆく野生動物の保護を訴えました。
- 7月22日から31日、第6回天王寺動物園サマースクールが小学生高学年210名を対象に開かれ各組3日間のカリキュラムを受講し修了証を手にしました。(写真⑫)
- 8月20日から9月10日、展示館で第6回のサマースクールを受講した生徒達の「サマースクール研究発表作品展」が開かれ、多数の父兄、入園客が成果を觀賞しました。
- 9月16日、南園シカ放飼場のニホンシカの角切りが行なわれました。これは恋の闘争でお互いが傷つくのを防ぐためです。
- 9月18日、動物病院増築で取り壊され、新たに工事中であつたキジ舎が66㎡と大きくなって完成し、ワシミミズク、フクロウ、オジロコシアカキジ、チャムネシヤツケイが展示されています。(写真⑬)
- 9月20日、昭和7年に建てられ48年たったボイラーの煙突を地震災害にそなえ建替え中でしたが、装いも新たに白銀色のスチール煙突となって完成しました。
- 9月20日～26日、動物愛護週間の期間中、無料動物相談所が開設されたほか、23日には動物慰霊祭と動物総合感謝祭が行なわれました。
- 10月1日、低温期に向い各動物舎を保温するため今年生れのニホンザルの優美ちゃんが動物代表としてボイラーの火入れ式に点火をしました。(写真⑭)
- 10月12日～11月3日、秋の動物園まつりが開催され、展示館では「児童動物画、動物愛護標語展」が開かれ、このほか無料動物相談所の開設、ボランティアによる動物ガイドなどが行なわれました。
- 10月31日、象が堀に落ちても安全に救助するため放飼場に救助スロープを工事中でしたが、このほど完成しました。(写真⑮)
- 11月25日、サルアパートの一角とクマ舎に照明灯と保温赤外線電球などをとりつけました。

めまぐるしい、あわたたしい1年でしたが、動物たちにはさほどの変化はなかったようで、また来年1年間もたのしいニュースを送ってくれることでしょう。

(飼育課：中川 哲男)

動物園ニュース

§ ラマ誕生

11月18日、午前10時8分、ラマにオスの赤ん坊が誕生しました。

9時すぎに破水が始まり、観察をしていたところすぐ両前肢と頭が出、1時間程で無事産み落とされました。



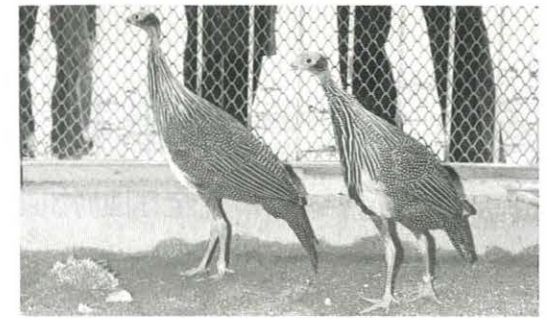
母親は昭和52年の11月に生まれた3才のマリーで、マリーにとって今回の出産は2産目となります。

とても元気な赤ん坊で産後すぐ立ちとうしはじめ25分でとうとう立って歩きはじめました。哺乳も起立後すぐに確認されています。

体色は父親のグロー似で、頭と右後肢腰などに焦茶の大きな斑点があります。

§ コウノトリ舎建設始まる

一昨年上海動物園からいただいたコウノトリ夫婦はこれまで北園ツル舎の一角で飼われていましたが日本で絶滅の危機にひんしているこのコウノトリを



ものばかりです。

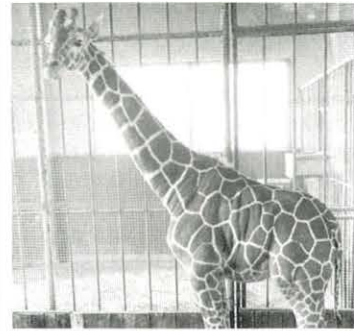
この日、アカヤマドリ、1番、カンムリウズラ、2番の寄贈もあり、日本一を自負する当園のキジ類のコレクションが一段と充実しました。

§ 府立盲学校来園

11月20日、府立盲学校の生徒達6名が引卒の先生や父兄の方々と来園されました。日頃あまり動物園を楽しめない生徒達の為に北園調理場前に、にわかコンタクトコーナーが急造され、動物たちの出演となりました。出演してくれた動物はトカラヤギ、ヒツジ、モルモット、ウサギなど計12頭で来園した生徒達の丁度倍となりました。



① ハナジロゲノン (アカオザル)



② キリン (さき子)



③ ペンギンの群



④ マーラ



⑤ アシカの仔



⑥ パカの仔



⑦ アカハシリウキュウガモ



⑧ アライグマ



⑨ 動物病院



⑩ ゾウ来園30年



⑪ 綿羊毛刈



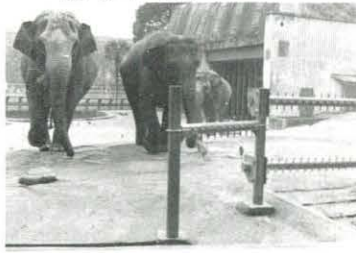
⑫ サマースクール



⑬ 新キジ舎



⑭ 火入れ式



⑮ ゾウスロープ

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

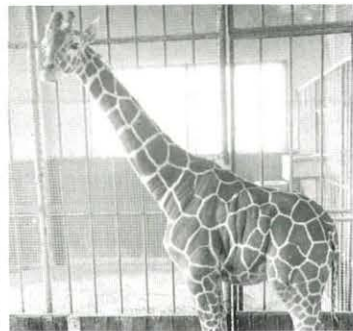
アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

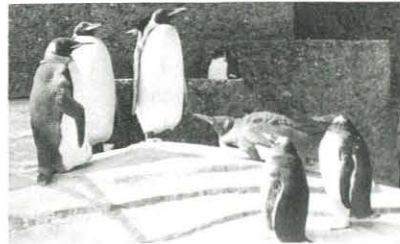
大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)



① ハナジロゲノン (アカオザル)



② キリン (さき子)



③ ペンギンの群



④ マーラ



⑤ アシカの子



⑥ バカの子



動物園ニュース

§ ラマ誕生

11月18日、午前10時8分、ラマにオスの赤ん坊が誕生しました。

9時すぎに破水が始まり、観察をしていたところすぐ両前肢と頭が出、1時間程で無事産み落とされました。



母親は昭和52年の11月に生まれた3才のマリーで、マリーにとって今回の出産は2産目となります。

とても元気な赤ん坊で産後すぐ立ちとうちはじめ25分でとうとう立ち歩きはじめました。哺乳も起立後すぐに確認されています。

体色は父親のグロー似で、頭と右後肢腰などに焦茶の大きな斑点があります。

§ コウノトリ舎建設始まる

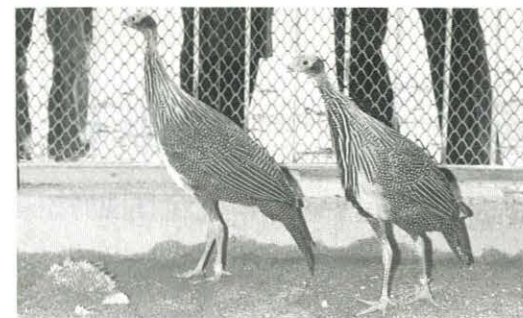
一昨年上海動物園からいただいたコウノトリ夫婦はこれまで北園ツル舎の一角で飼われていましたが日本で絶滅の危機にひんしているこのコウノトリを



繁殖させるため、このほど専用のコウノトリ舎を建設することになりました。場所は北園ファミリー広場の一画で、広さは330㎡、高さ13mの大きなケージとなる予定です。来春の3月末ごろには広々としたケージの中で飛び廻るコウノトリ夫婦をお見せできると思います。

§ キジの寄贈

9月に沢山のキジを寄贈して下さった奈良在住の上村画伯が10月28日、またキジ類を寄贈して下さいました。今回は6種8羽で、チャムネシャクケイ、オス1羽、ミカドキジ、オス1羽、フサホロホロチョウ、1番、シロカケイ、オス1羽、シロキジ、1番、シマオオナガバト、1羽です。いずれもペアリングや血液更新の為、以前から入手先を探していた



ものばかりです。

この日、アカヤマドリ、1番、カンムリウズラ、2番の寄贈もあり、日本一を自負する当園のキジ類のコレクションが一段と充実しました。

§ 府立盲学校来園

11月20日、府立盲学校の生徒達6名が引卒の先生や父兄の方々と来園されました。日頃あまり動物園を楽しめない生徒達の為に北園調理場前に、にわかコンタクトコーナーが急造され、動物たちの出演となりました。出演してくれた動物はトカラヤギ、ヒツジ、モルモット、ウサギなど計12頭で来園した生徒達の丁度倍となりました。



生徒達は動物に接するのはほとんど初めての様子で、大胆に触れる子や怖がって全然近寄らない子や反応は様々でした。しかし、最後には全員、動物達に触れたようで、みな動物達のやさしい感触に満足したようです。

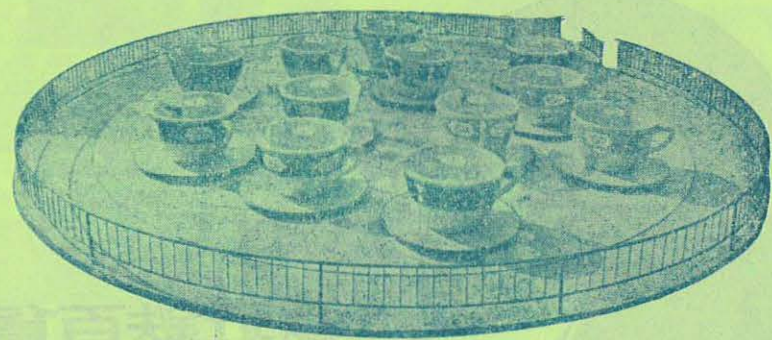
休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年3月までの休園日は下記のとおりです。

12月15日(月)、1月19日(月)、2月16日(月)、3月16日(月)、年末年始は12月29日～1月1日まで休園いたします。

開園時間は9時半から5時までで、4時に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娛樂 株式会社

本社 工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和55年12月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

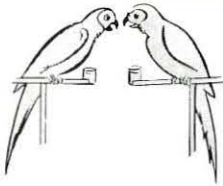
第16巻第12号(通巻184号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

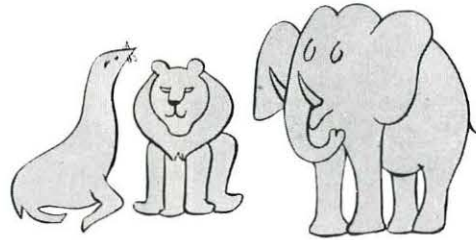
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイナップル・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 板野 健一・中川 哲男・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登